

為せば成る

為さねば成らぬ何事も
成らぬは人の為さぬなりけり

豊橋市立二川中学校
2年1組 学級通信
令和元年12月10日号

このゴミを見てどう思いますか!?



12月6日金曜日、1週間の2年1組担任を終えて、楽しかったなあと思いながら、教室の掃除をしました。今回、担任をするのは前任校の北部中学校で3学年主任として二人担任をして卒業生を送り出した2年前以来。「もう担任をすることもないなあ」と、とても残念に思っていたのですが、期せずして「担任」をすることになりました。といっても、山下主任、中村先生といっしょにはありますが。あと10日ばかりですが、山下主任、中村先生といっしょにみなさんをサポートしていきます。

ほこり

● 家庭内のほこりの成分

2008年ダスキン調べ

ほこりに含まれるダニ、カビ、細菌の数	ほこりがたまる場所
2010~11年ダスキン調べ	2009年ダスキン調べ
ダニ 約2000匹	床面 52%
カビ 約3万個	棚面 29%
細菌 約800万個	目線より高い位置 19%

今さら聞けない

ほこり

繊維と土砂が主な発生源

生活している限り、縁を切れないのがほこり。身の回りのどこにもあるのに、その実態は意外に知りません。ほこりの正体は何なのでしょう。

ダスキンは1000年代ごろからほこりの調査をしています。2008年は、12軒の一般家庭から1週間使った掃除機の紙パックを

集め、成分を調べました。もっとも多かったのは繊維(綿ほこり)で半分以上の56%でした。80年代、90年代の調査では繊維が7割ほこりを占めたこともあり、室内では服やふとんなどから出る繊維がほこりの主要な発生源とされています。

次に多いのは、土砂(無機物)で27%。いわゆる砂ほこりです。ダスキンによると、50年代、60年代には砂ほこりが半分以上だったという研究結果があるそうです。同社開発研究所の桂積邦環環境衛生研究室長は「調査方法などが違うので単純な比較はできませんが、昔は道路の舗装がよくないことで砂ほこりが多かったのではないかとみています。」

同社のモップも最初は砂ほこりを取るのに適した綿素材だったのが、現在は綿ほこりに強いナイロン素材になっています。

砂ほこりは風に運ばれてくるほか、人の体や服については、こくもものもある中で、手足ものいる家は多いなどの特徴があるそうです。

ところで、砂ほこりには水晶体と同じ材質の石英という鉱物が含まれています。石英は非常に硬く、真珠やサングラス、オパールなど比較的柔らかい宝石はだん身に傷つけているだけでもほこりで傷つてしまいます。石英よりも硬いダイヤモンド、ルビー、サファイアなどは大丈夫です。ダイヤモンドの輝きが永遠といわれるゆえんです。

繊維と土砂以外では、パンやビスケットなど食べ物のかけら(4%)、髪の毛や動物の毛(3%)、細かい紙切れ(2%)があります。その他(8%)には、皮膚やふけ、ダニなどのほこり、花粉など生き物由来のものも含まれます。ほこりがたまりやすい灰色に見えるのは、いろいろなものが混ざっているからなんです。

細かい紙切れ(2%)があまりありません。そのほこりには、皮膚やふけ、ダニなどのほこり、花粉など生き物由来のものも含まれます。ほこりがたまりやすい灰色に見えるのは、いろいろなものが混ざっているからなんです。

大きさは様々です。1千分の1以下のウィルスやタバコの煙もあれば、食べ物のくずや目に見える1mm程度の大きさのものもあります。ダニの大きさは約0.3mm。ふるいにかけた0.6mm以下の細かいほこり1gの中に約2千匹のダニがいたそうです。ダニの死骸やふんはもっと小さなアレルギーの原因になります。

花粉の大きさは約0.03mm。これら0.005mmより大きいほこりは風などで舞い上がったとしても30分ほどで落ちてしまいます。逆に2千分の1より小さいほこりはいつまでも落ちないです。このほこりは空気清浄機で取り除かなければなりません。

ほこりの一番たまる場所は床面ですが、床を掃除しただけではまだ半分、テレビの上にもたま

話を本題に戻しますが、このゴミは「金曜日の夕方に教室を掃除して出たゴミ」です。知っている人も多いと思いますが、毎朝1年生から3年生までの廊下全てを掃き掃除していました。各学年の廊下、これ以上のホコリやゴミがいつも集まっていた。

上の写真のゴミやホコリや紙くずなどは、約20グラムでしょうか。それを左の表を基に換算すると、ダニは約4万匹、カビは約60万個、細菌は約1億6千万個になります。

廊下や教室を走らなくても歩くだけで、ゴミやホコリが舞い上がります。これから乾燥するためさらに舞い上がります。ホコリはアレルギーの原因にもなります。みんなの健康のためにも掃除を真剣にしてきれいにし、健康に気をつけたいですね。

みんな同じこの教室で話したり食べたり、生活しているのですから。